

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年5月31日現在

今月の重点活動

■カキ 平成29年度JAぎふ柿塾 開講

JAぎふは、県の果樹担い手育成サポートセンター支援事業を活用し、管内の主要品目である柿の新規担い手育成、基礎的な技術修得を目的として、昨年度から「柿塾」を開催しており、農業普及課でも支援してきている。

5月1日には、本年度第1回目の講義が開催され、柿生産において重要な摘蕾作業について、農業普及課やJAぎふ職員が講師となり、室内講義および現地実習を行った。また、柿塾開講に当たり、県農業経営課から、受講者に向けた激励の言葉があった。

本年度の受講生は、20～60代の10名で、後継者として新規就農を目指す方もあり、熱心に受講していた。今後、年5回程度の開催を計画している。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子、西垣 孝)



【柿塾の現地実習】

新たなブランドづくり

■にんじん にんじんを使った地産地消の推進

各務原市、同市商工会議所、JAぎふ、東海学院大学は、にんじんを対象とした地産地消協定を結んでいる。5月8日に、同大学において第1回会議が開催され、にんじんを使った加工品、年齢層別のレシピの作成など、大学ならではの豊かな発想で、終始活発な意見交換が行われた。

次回7月には、菓子製造業者も加わり、学生が作成した加工品への助言や、11月のフードセレクションにおいて、菓子製造業者が試験販売する生徒の加工品の絞り込みを行う。農業普及課でも、にんじん産地振興計画の一環として会議に参加し、取り組みを支援している。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【会議の様子】

多様な担い手づくり

■いちご いちご新規就農者研修所 成果発表会

5月16日、JA岐阜厚生連管理センターにおいて、いちご新規就農者研修所9期生成果発表会が開催され、研修生3名が研修所で14か月間研修した成果について発表した。

研修生は、それぞれ約10aのいちごほ場の管理を任せられ、上手くいった点や失敗した点など、グラフ等を用いて説明した。出席した生産者代表や関係機関からは、失敗した要因などについて鋭い質問が出されるとともに、就農に向けた温かいアドバイスも行われた。

3名の研修生は、今年6月に岐阜市、各務原市で就農する予定であり、農業普及課では、関係機関とともに、就農後の支援を行っていく。

(園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵)



【発表の様子】

売れるブランドづくり

■小麦種子 採種ほ場審査

5月26日に、小麦「タマイズミ」採種ほ場の第2回目ほ場審査を、本巣市、北方町で実施した。一部ほ場で雑草が残っていたが、全体的に適正に管理されていた。

県内の「タマイズミ」は、当管内のみの生産であるため、今後も小麦種子が安定供給できるよう、JAぎふ、生産者と連携して、種子の安定生産を継続させる。

(地域支援第三係・岡田隆史)



【糊熟期ほ場審査】

■だいこん **べたがけ資材試験**

春だいこんは、秋冬だいこんに比べ高い資材費に見合う販売単価を確保することが難しいため、生産者からは資材費を低減した省力栽培方法の確立が求められており、農業普及課では、JAぎふだいこん部会と連携し、簡易被覆（べたがけ資材）による試験ほを設置し、こぶ症や抽苔の発生状況について調査を行っている。

3月下旬に播種した試験ほでは、2種類の被覆資材の比較試験を行っており、これまでは順調に生育している。今後、収穫調査等を行い、簡易被覆による低コスト安定生産の普及拡大に向けて継続支援していく。
(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【だいこん試験ほ場】

■えだまめ **目揃会で病害虫防除情報を提供**

5月12日、JAぎふ島集荷場において、ハウスえだまめの目揃会が開催された。初めに、市場関係者やJA全農岐阜担当者から、情勢報告を受け、JAぎふ担当者から、出荷時の注意点などの説明があった。参加した生産者は、並べられたサンプルを手取るなど、真剣な面持ちで選果基準の確認をしていた。

目揃会後の栽培研修会では、農業普及課から、施設栽培における土づくりの注意点や、病害虫の発生状況などについて情報提供を行った。

今後、農業普及課では、定期的にはほ場巡回をし、生育状況などを確認するとともに、高品質安定生産のための栽培管理など、情報提供していく予定である。
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【目揃会の様子】

■ブロッコリー **秋冬ブロッコリー栽培研修会を開催**

5月24日、JAぎふ北方支店において、ブロッコリー生産連絡協議会が栽培研修会を開催し、約80名が参加した。

昨年産では、秋の長雨やヒヨドリ被害により、前年実績を大きく下回る結果となったことから、農業普及課から、場当たりの管理では天候に対応することは難しく、ほ場準備から収穫までのイメージを持って、計画的に管理することの重要性について説明した。

今後は、7月下旬から育苗、8月下旬から定植が始まり、栽培面積19ha、出荷量160tを目指す。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【栽培研修会の様子】

住みよい農村づくり

■小学校総合学習 **水稻の機械移植体験の開催**

5月12日、羽島市上中町の(農)市之枝営農組合の水田において、市立中島小学校5年生の総合学習が行われた。

中島小学校の5年生は、「ハツシモ博士になろう」というテーマで、毎年総合学習を行っており、今回は、当営農組合組合長から、取り組み概要について聴講した後、田植え機に同乗して田植え気分を味わった。

農業普及課からは、田植え作業の移り変わりについて説明するとともに、児童からの質疑応答を行った。今後は、6月8日に予定されている手植え体験の支援を行う。

(地域支援第二係・今井啓司)



【組合長からの説明】